

2019年度「研究者の横顔」レポート

氏名：藤田 雄

1. 研究者になるうとしたきっかけ

医学部在学中に実の母親を肺癌で亡くしました。卒業後、迷わず呼吸器内科を専攻し、国立がんセンター研究所で肺癌の基礎研究の道に進みました。現在は、肺癌患者の抗がん剤治療を行いながら、physician scientistとして基礎研究も行なっております。

2. 助成研究の内容紹介

オプジーボに代表される免疫チェックポイント阻害剤は、効果を予測する検査の重要性が言われておりますが、未だ確立したものは存在しません。腫瘍と免疫細胞の複雑な関係を評価するには、血液にて診断できる体液診断が必要だと考え、その中でも特に細胞が分泌する細胞外小胞顆粒(エクソソーム)に着目して、免疫チェックポイント阻害剤の効果予測研究を行なっております。

3. 2の将来に繋がる結果予想・目標

本研究が実現できれば、免疫チェックポイント阻害剤の効果予測を、患者さんに負担なく判断することができ、免疫チェックポイント阻害剤が必要な患者さんに適切に治療薬を提供でき、また不必要な副作用を未然に防ぐことができると考えています。

4. 全国のRFL関係者に一言メッセージ

私もがん患者家族でした。がん患者さん、そのご家族、医師、研究者が、がん征圧のためにとともに前進しましょう。